

なにかに気がつく、考える雑誌『re@lize』
『「神保町」に人が集う理由とは』をテーマに取材から制作まで

専修大学文学部ジャーナリズム学科 植村ゼミ 3年
山本優衣、石原楓、谷元志優、左近美穂

はじめに

植村ゼミでの雑誌制作は、2022年の11期生から数えて3号となった。担当する3年生は、1号は13名、2号が8名だったが、今年は4名と少人数である。勢い、一人あたりの負担も大きく、不安の残るスタートとなった。

1. 注目される「神保町」

特集テーマは、「神保町」である。神保町と言えば、本の街として知らない人はいないといっても過言ではない。最近では、海外からのインバウンド客も訪れるほどだ。春の「本の街神田すずらんまつり」、秋の「神保町ブックフェスティバル」は、多くの人が集い、必ずテレビやメディアが取り上げる一大イベントとして長く開催されてきた。

さらに、明治大学、共立女子大学をはじめとする地元の大学生が、これまでも神保町をテーマにした特集雑誌を発行し、あるいはイベントやグッズ制作などに取り組んできている。専修大学でも商学部の渡辺達朗ゼミが「地域マーケティングとまちづくり」の研究対象として、神保町に長く取り組んで様々なイベント企画を実施してきた。

なによりも神保町の雑誌と言えば、神田古書店連盟がつくった公式本『神保町公式ガイド』や『JIMBOCHO 古書店 MAP』、「本の街・神保町を元気にする会」が発行している『神保町が好きだ!』、人気のフリーペーパー『おさんぽ神保町』など、プロの手による魅力ある雑誌が目白押しである。

2. どのように「神保町」を取り上げるか

ライバルが多数いる中で、私たちも学生としてどのようなアプローチをするのか、悩ましいところであった。

まずは、東京文化資源会議が主催するイベントや神保町夜学などにも参加し、関係者と知り合うことから始めた。出会う人たちは、みんな神保町が好きで、神保町の魅力にとりつかれた人たちばかりである。それならいっそ、神保町の魅力を伝えてきた雑誌編集者や研究者、古書店主に逆インタビューして魅力を語ってもらうのはどうだろうか。神保町に訪れる外国人たちに、訪問理由を聞くのも面白い。

表紙には、『「神保町」が愛される理由とは』として、『神保町に訪れた外国人 40 人に聞いた！「You は何しに神保町へ？」』と『神保町を紹介してきた人たちを「逆」に紹介「神保町の伝承者たちに聞く」』の二つを特集クレジットした。

2. 構成

2.1 You は何しに神保町へ？

コロナ禍もあけ、インバウンドの影響が大きい日本。神保町にも多くの外国人観光客を目にする。彼らはなぜ数ある都市の中から、神保町を選んだのか。そして何を求めて訪れたのか。舞台は数多くの古書店が建ち並ぶ「神田すずらん通り」。古書店街を歩く外国人観光客に突撃インタビュー。どこの国から、誰と、どんな目的で訪れたのか。実態を調査！

2.2 神保町の伝承者たちに聞くインタビュー

①スーザン・テイラー（研究者）

世界と結びつく奥深い街

②瀬瀬くり（大屋書房）

神保町全体がお気に入り

③高野明彦（国立情報学研究所）

神保町全体を開架式の図書館に 「今」考える神保町ブランド

④校條真（『神保町が好きだ！』風讀社編集担当）

本のことなら神保町に来れば何でもあるぞ

⑤石川恵子（「おさんぽ神保町」編集長）

名刺なんか出さなくたって一個テーマがあればずっと語り合える

2.3 神保町の歴史

おわりに

1 月 20 日、まだ、全ての頁が決まっていない。25 日東京都立多摩図書館マガジンバンクカレッジに間に合うのか、徹夜の作業が続いている。